

2022春闘 収入動向を行う

本部は、3月3日、収入動向交渉を行いました。以下、報告します。

まず、営業部より1月の収入動向を説明。

1. 収入動向 「対計画△955百万円（90,7%）」

コロナ禍による需要低迷に加え、相次ぐ雪害等各種災害の影響により、全ての品目で計画を下回った。特に、農産品・青果物は、北海道地区夏季干ばつに伴う作柄不良の影響を受け低調に推移したほか、食料工業品は、外食産業向け需要低迷により低調となった。結果、コンテナ全体では計画比89,1%となった。車扱は、石油需要が寒波の影響もあり強勢に推移した上、仕切り値が年明け後上昇を続けたことで先買い傾向が強まり計画を上回った。結果、車扱全体では計画比101,5%となった。コンテナ・車扱合計では、計画比90,7%となった。

・コンテナ

各品目雪害影響に加え、農産品・青果物は、北海道地区での夏季干ばつに伴う作柄不良により、△167百万円となった。食料工業品は、コロナ禍における外食産業向け需要低迷により、△147百万円となったほか、積合せ貨物は、関東⇄九州間で荷量減となり、△139百万円となった。コンテナ全体では、対計画△975百万円（89,1%）となった。

・車扱

車扱は、石油需要が寒波の影響もあり強勢に推移した上、仕切り値が年明け後11円50銭上昇したことで先買い傾向が強まり計画を上回った。車扱全体では、対計画+20百万円（101,5%）となった。

2. 輸送量動向

コンテナは、各都道府県で発令されたまん延防止等重点措置に加え、北日本地区で相次ぐ雪害の影響を受けたものの、前年の緊急事態宣言や津軽線等が不通となった雪害の反動で、自動車部品、エコ関連物資、他工業品を除く品目で前年を上回った。積合せ貨物は、3月および10月からのブロックトレイン運転開始等により前年を上回ったほか、化学薬品は、一部顧客の本年度からの新規区間での輸送開始等により増送となった。一方、自動車部品は、半導体不足および東南アジアからの部品調達困難に加え、国内でのオミクロン株感染拡大に伴い各社で生産調整を行った影響で減送となった。コンテナ全体では、前年比102,6%となった。

車扱は、石油が前年に緊急事態宣言下での外出自粛に伴い揮発油を中心に低迷していた反動により、前年を上回った。車扱全体では、前年比104,1%となった。

コンテナ、車扱の合計では、前年比103,2%となった。

「営業部」

組合・2021年度の事業計画数値は、「コロナが収束するだろう」という考えで策定したかと思うが、現状の通りコロナは収束せず厳しい舵取りを余儀なくされた。昨年末からは雪害が続き、1月・2月は相当厳しい営業を強いられたと思うが、2021年度もあと残り1ヶ月を切った。計画通り（1月改定数値・単体5億）見込めそうか。

会社・収入ベースの数値では、現段階で対計画△20億円を上回っており相当厳しい状況である。

組合・単体5億という数値は達成できそうか。
会社・現段階では、非常に厳しい状況としか言えない。
組合・主な原因は、昨年末から続いている雪害の影響か。
会社・雪害もあるが、コロナ禍や、半導体不足による自動車部品の低迷もある。
組合・半導体不足で自動車関連も非常に厳しいと思うが、今後の見通しはどのように考えているのか。
会社・コロナ禍の影響も受けており、今後も注視が必要と考えている。
組合・グループ会社も非常に厳しい状況か。
会社・グループ会社の個々の状況もあるが、連結全体でみても厳しい状況である。
組合・単体黒字は非常に厳しい状況として、連結での黒字達成は見込めそうか。
会社・連結においても、現段階では非常に厳しいとしか言えない。
組合・北海道地区の雪害で鉄道輸送が機能していない時期が長く続いたが、これにより荷物がトラック・船舶・航空に逃げていることはあるのか。
会社・雪害によって他モードに切り換えたお客様はいるが、鉄道に戻る様に取り組んで行く。
組合・2022年5月稼働予定の「札幌レールゲート」は順調に進んでいるのか。
会社・順調に進んでいる。
組合・東京レールゲートEASTは、2022年7月竣工予定だが、順調に進んでいるのか。
会社・順調に進んでいる。
組合・米原貨物ターミナル（仮称）事業中止は、多少なりともコロナが影響しているのか。
会社・事業中止の大きな要因がコロナ禍という事ではない。関係団体等との協議した結果である。
組合・ダイヤ改正も近いが、営業部としてこの窮地を打破する取り組みを何かしているのか。
会社・年度内は最後まであきらめず、今年度の施策を最後まで取り組んで行く。
組合・具体的な取り組みはあるのか。
会社・年度末需要もある。新規や既存で取りこぼしのないように営業活動を展開していく。
組合・2022年度の事業計画を策定中と思うが、コロナの状況をどのように判断して策定しているのか。
会社・現在策定中であるので、別途説明したい。
組合・日本の経済は、2019年10月の消費税アップから下降していると言われている。たとえコロナが収束しても、劇的な経済回復は見込めない。相当厳しい営業活動が続くと思うが、この窮地を打破するべく鋭意努力して頂きたい。私達は安全安定輸送に努めていく。
会社・承知した。引き続きご協力をお願い申し上げます。

「人事部」

組合・会社が非常に厳しい状況であることは理解する。まだ、結果は出ていないが通期見通し計画（単体・1月改定数値）では黒字を見込んでいる。黒字が見込めるこの数値は、組合員一人一人の「努力の賜物」であることを強く認識して頂きたい。
会社・コロナの影響や1月、2月の雪害もあり、非常に厳しい状況の中で、皆さんには努力して頂いているという認識は持っている。引き続きご協力をお願いする。
組合・コロナ陽性になると、「障害」扱いでなく「年休」で処理される。我々は、指定公共交通機関の使命のもと業務についており、現場においては陽性になるリスクが非常に高い。「インフルエンザ等も含め、感染症に感染した場合は年休扱いではなく、『障害』扱いとしてほしい」という声が多くあり、早期実現を求めたい。
会社・主張は受け止め、社内議論していく。
組合・人材は会社の財産である。会社がどんなに良い将来展望を描いても、人材が無ければ達成は出来ない。労使が一体となり、コロナ禍という窮地を打破していくためには、将来に希望が持て安心して働ける環境づくり「人への投資」が必要である。我々は、「会社の業績は、単体でなく連結で判断すべき」と以前から申している。次回交渉は、「会社の考え」となるが、組合員の士気を上げるためにも誠意ある回答を強く求める。
会社・今回の主張を受け止め、社内で議論を深めたい。
組合・次回交渉は、3月9日でよいか。
会社・そうである。